

学校だより 希望の鐘

ひとつのつぼみはいつしかひらかない



八戸市立 小中野中学校

平成30年7月20日(金)

No.125 文責：校長
工藤聡

ご家族に感謝する夏休みにしてください

先週の土曜日のことです。家族とラーメン屋さんに行きました。そのラーメン屋さんは、いつも行列が絶えないので、私の家族も一回は行ってみたいと話していたお店でした。開店は11時なので、その10分前に行ったのですが、すでに20人くらい並んでいます。あまり大きなお店ではない(テーブル席が3つとカウンターに9人くらい座れる感じ)ので、ギリギリ入れないかも…とっていると、案の定(アンジョウ：予想していた通りに事が運ぶさま)我々の前で店内はいっぱいになりました。私の家族は「帰ろう」と言いましたが、せっかく10分ほど並んだのですから、このまま待とうということになりました。そして、30分待ってようやくお店に入ることができました。我々の後にも何人か並んでおり、店内のお客さんからもその様子はガラス戸越しに見えますから、なかなかのんびり食べるということはできなかったからかもしれません。先に入店したお客さんも、「空気を読んで」急いで食べてくれたからだと思いますが、それでも最初に並んで40分経っての入店でした。

私と家族も、そのお店の人気No.1のラーメンを頼み、出来上がるのを待っていました。すると、店主らしき男性が、テーブル席に座っていた3人連れ(職場が同じだと思われる男性1名と女性2名のグループ。全員20歳代に見えました。)に向かって、「お客さん、少しのんびりし過ぎですよ。暑い中でも並んで待っている人がいるんで、少し急いでもらえますか」と声をかけました。ちょうど次に入店できる先頭は、3~5歳くらいの子も2人を連れだご夫婦と思える家族連れ4人でした。その家族連れは、子どもが小さいため、カウンター席が空いても後ろに並んでいた人に次々と席を譲り、ずーっとテーブル席が空くの待っていました。さらに15分くらい経過して、我々の前にもラーメンが運ばれてきた時に、やはり店主の男性が「お客さん、カウンターに移ってもらえますか?」と、さきほどのテーブル席のグループに声をかけました。15分の間にも次々とお客さんは入れ替わり、最初に入店した20人ほどで残っているのは、店主が声をかけたテーブル席の3人だけになっていました。すると、その3人連れの中の男性が、「じゃあ帰る☺」と言っていきなりお店を出て行ったのです。お店の出入口はガラス戸で横にスライドさせるタイプのものでしたが、それをガラスが割れるのではないかと思えるくらいにバーンと荒々しく閉めていきました。その顔は、目がつりあがり、くちびるもとがった感じで、まるで駄々っ子(ダダッコ：自分の思い通りにならない時に、わがままを言う子どものこと)のようでした。一緒だった女性2名が「すみません」と小さな声で謝りながら、その後を追って出ていきました。しばらく、店内は殺伐(サツバツ：穏やかさやあたたかみを感じられない様子)とした感じでした。私も家族も、行列ができるくらい評判のラーメンの味もよくわからないまま帰ってきました。

さて、どうしてこの話をしたかという、みなさんもラーメン屋さんを出て行った男性のような表情をしたり、同じような行動をとったりすることがあるのではないかと思ったからです。自分でもやらなければいけない…とと思いながら、なかなか行動にうつれない時、そのことをご家族や大人に「やりなさい」とか「やったの?」と言われると、やっていなかった自分のことは棚に上げて(タナニアゲル：自分にとって不都合なことには目を背ける様子)、言われたことだけに腹を立てていないでしょうか。きっと、とげとげしい表情になっていると思いますよ。

夏休みは家庭で過ごす時間が多くなる分、ご家族と一緒にいることも長くなります。もしかすると小言(コゴト：間違いや悪い行動をとがめて戒める言葉)と言われることも増えるかもしれません。その時には、感情にまかせて口答えをするのではなく、自分のために頑張っているご家族の姿を、いつもよりじっくり見るといった気持ちで過ごしてもらいたいと思います。

夏休みは、いろいろな経験ができます。夏休みだからこそできることがあるはずですよ。毎日ダラダラ過ごしても32日間は過ぎてしまいます。何か目標を持って取り組んでも32日間はやはり過ぎていきます。楽しいことやつまらないことがあっても、32日間は過ぎます。同じ32日間でも、同じ一日でも、後になればなるほど速く進むような気がします。みなさんも、ご家族に感謝しつつ、何か一つ「これだけは頑張りました」と言えるものが残る夏休みにしてください。

今後の課題は「奇声」

今日で1学期が終わります。1学期の始業式が4月9日でしたから、103日が経過したことになります。まだ寒い「冬」から「春」、そして今では気温30度を越える「夏」と3つの季節にまたがった1学期でしたが、みなさんの様々な頑張りや成長に心から拍手を送りたいと思います。特に、大きな事故やトラブルがなかったことが何よりでした。ただ、解決しなければならない課題もいくつか見えてきました。その中でも、第一に考えなければならないと私が考えていることは、校内で“奇声”を発する生徒が目だっていることです。

奇声は、昨年度までも時々散見（サンケン：あちらこちらに見えること）されましたが、現在は昼休みや休み時間の移動教室時に必ずとっていいほど聞こえてきます。「ギャーッ」という叫び声や「ギャッハッハッハ」というバカデカイ笑い声、「#*☆※●」という言葉にならないものなど多様です。男子のものが多いようですが、女子のものも時折まじります。特定の人であれば、その生徒に注意すればそれで済むのですが、何人もいるようで、特に午後は多い感じがします。

では、どうして奇声を発するのでしょうか。

小さい子どもが奇声を発するのは、珍しいことではありません。それには、以下のような理由があるからです。①周りが反応するのを楽しんでいる。もちろん、幼いので、奇声が他人の迷惑になるとはわからず、周りの人と遊んでいるつもりで奇声を出している。②楽しいことや興味があることがあった時に、興奮してテンションが上がり、思わず大きな声が出てしまう。③眠たい時やお腹がすいた時など、機嫌が悪くなって、苛立ちから奇声を出すことがある。④言葉を話せない乳幼児は、不満をうまく言葉にできません。そのため、自分の思い通りにならない時に奇声をあげて不満を訴えることがある。⑤知らない人に会ったり知らない場所に行ったりした時に、戸惑ったり不安な気持ちが高ぶって奇声をあげる子どももいます。大声を出すことには、ストレス発散作用があり、精神的な安定を保つための防衛本能の一種と捉えることもできます。⑥誰かの注意を引きたくて、奇声を出すことがあります。特にお母さんが家事をしていたり、自分以外の人との会話に夢中になっていた時に、大きな声でアピールするようです。「自分をもっと見てほしい」「かまってほしい」という気持ちの表れです。⑦赤ちゃんであれば、奇声を出すことを楽しんでいる場合があります。あるいは、まだ声量をうまく調整できないため、うるさいくらい大きな声でおしゃべりすることもあります。

以上のことから考えると、校内で奇声を出している生徒は、①楽しんでいる ②興奮したりテンションが上がっている ③イライラしている ④奇声を出して不満を訴えている ⑤戸惑ったり不安な気持ちが高ぶっている ⑥誰かの注意を引きたくてやっている ⑦声量をうまく調整できない・・・という人になります。しかし、①～⑦はあくまで乳幼児や小さい子どもを例にとったことですから、中学生でもそうだとすることは、あまり考えられません。私が過去に勤務していた中学校でもそうですし、これまでの小中野中学校もそうです。もし、不満や不安があったりイライラしているのであれば、誰かに相談してください。奇声をあげることでは、根本的に何一つ解決しないわけですし、社会常識においてもマナーに反するばかりか、時には騒音として処罰されることもあり得るのです。

もし、面白がってわざとやっていると、『きちんとした場所（学校もそういう場所だと私は考えますが…）でなら絶対奇声は出さないよ』という人もいるかもしれませんが、しかし、慣れてしまえば、いつの間にか知らず知らずのうちに奇声を出していることにもなりかねないのです。奇声を聞いたときに校外でも出して迷惑をかけているのではないかと心配になります。

奇声を出すか出さないかは、自分をコントロールできる中学生にとっては何でもないことのように思えます。昨年度は、廊下を走る生徒が大勢いて、生徒総会で話し合いました。今度は“奇声”について話し合うことになるのでしょうか。奇声を出さない、しっかりした人がほとんどであるのに…？

【今日のひとりごと】

●今日の私の似顔絵は、年組のくんを描いてもらいました。何となく朗らかな感じがする似顔絵です。高宮くんが『夏休みの目標』を聞いたところ、「部活に遅れないで、始まる30分前には着くこと」と言っていました。次に『夏休みにやってみたいこと』は、「部活でカットマンに挑戦しているので、そのカットを安定させたい」とのことでした。目標に向かって、頑張ってください。

●保護者の皆様、地域の方々、1学期中の教育活動に対しまして、多大なるご理解とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。おかげさまで、無事1学期を終了することができました。ありがとうございました。夏休みも、様々な形で教育活動を展開することになるかと思っております。なにとぞ、よろしく願い申し上げます。